



自然米
できました！

ふくおかの農業生産法人

直方 ヤマニファーム



福智の太陽ー自然米ひのひかりー

農薬や化学肥料などの薬品類を一切使用せず、稲が本来持つ「生きる力」だけで育ちました！

本当に安心して
召上って頂けるお米です。
あなたの大切な方と
一緒に、どうぞ！



福智山の春・夏・秋～自然米の栽培記録～

5月 播種



MOA 自然農法文化事業団の紹介で、数十年自然農法を実践されている農家さんから自然米ひのひかりの種子を分けていただきました。苗を育てる土も無肥料培土を特別に用意。写真は播種後 10 日後の様子で、左が自然米、右が肥料入り培土で育てられているお米です。肥料のおかげで青々とした葉を十分に伸ばせている肥料米に比べて、自然米は色が薄く、苗の長さも短い状態でした。ただ、根の強さと長さの比較では、自然米の圧勝。このときどれだけ根を伸ばせたかが、収穫に影響します。

6月 田植

除草剤を使用しないため、田んぼづくりにも一工夫

です。通常では田植え前の代かき（田んぼの土と水を混ぜて均一にし、稲の苗床をつくる作業）は一回で終わりですが、自然農法ではこの後 10 日ほど田んぼに水を張りその後水を落としてもう一度代かきをする「二回代かき法」を行います。これにより効果的に雑草の根と種子を断ち、有用な有機物を土に混ぜることができます。



日本の水源百選に選ばれた福智山の森林。その清流でお米づくりをしています！

田んぼに土を入れた途端目覚めるジャンボタニシ。田植えした苗を食べられるため農家さんからは嫌われ排除されていますが、自然農法では彼らを除草剤の代わりとして利用します。彼らの活動が鈍る昼間田んぼに水を張っておき、活発になる夜間に水を落とします。活動時の水位を下げることによって、彼らは硬い稲の茎よりも、発芽した雑草の柔らかい芽を好んで食べるようになります。写真は畔から田に侵入する雑草を食べているタニシの様子です。

他にもカブトエビやホウネンエビなど多くの生命が生きています。豊かな田んぼは、守るべき日本の宝であると思えます。

